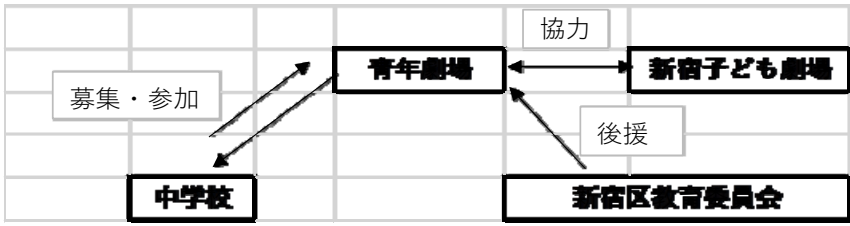


成果報告書

(地域文化倶楽部創設支援事業)

有限会社青年劇場

所在地	新宿区新宿2-9-20 問川ビル4階	設立年	1964年
運営主体	有限会社青年劇場		
事業目標	新宿区の中学生たちに継続的に演劇文化に触れてもらえる場を作り、新宿地域の子どもの文化芸術活動の機会活性化を図る。		
きっかけ	新宿区には演劇部のある公立中学校がなく、生徒たちが気軽に演劇に触れられる場所がないことがわかる。また、コロナが子どもたちに与えている影響を鑑みて、「コミュニケーションの芸術」とも呼ばれる「演劇」の楽しさ、面白さを体験してもらうことで、参加してくれる生徒が自主性、協調性を育てていく場、何かをやり遂げ達成感を得ることで自己肯定感を高められる場を築きたいと考える。 青年劇場の持っているスタジオを活かし、中学生たちが継続的に演劇活動ができる場所を作りたいと考え創設に至る。		
団体・組織等の連携	<p>新宿区、新宿区教育委員会と連携して参加者募集の呼びかけを実施。 (特定非営利法人)あそびと文化のNPO新宿子ども劇場の副理事長に、外部有識者として参加してもらい、準備段階、実施段階でアドバイス等を得る。</p> 		
活動場所	青年劇場 スタジオ結 新宿区新宿2-9-20問川ビルBF1		
活動概要	応募してくれた4名の中学生に対し、全8回の演劇ワークショップを実施。 前半4回は2時間実施で、シアターゲームなどのコミュニケーションゲームを主に行う。 後半4回は3時間実施で、短い演劇作品の稽古を主に行った。 最終日には成果発表として、保護者や関係者を迎えて小作品の成果発表を行った。		

〇本事業による成果

- ・募集チラシを見て、4名の中学生が申し込んでくれた。
- ・日常で演劇に触れる機会の少ない中学生たちに、段階を踏んで演劇文化への理解を深めてもらい、興味関心を引き出すことが出来た。
- ・それぞれ別の学校に通っている参加者たちが、ワークショップを通して深いつながりを作ることができた。
- ・成果発表を行ったことで、参加者生徒たちに、舞台に立ち人前で演劇を行うという非日常の体験をしてもらうことができた。
- ・以下、全行程終了後に行ったアンケート調査で得た回答。(一部抜粋)
「演劇にそれほど興味はなかったですが、このワークショップを通して、沢山のコミュニケーションや生で感じるお客さんの声、スポットライトなど、舞台ってこんなにおもしろくて素晴らしいものなんだと発見できました！！」
「今回のワークショップを通して自分を表現する力がつきました。」



ワークショップの様子



成果発表

○児童・生徒への指導に関する工夫

- ・次記のワークショップルールを作り、毎回冒頭で確認した。
《「あ・た・し・た・ち」(あ・はじめと終わりにあいさつをする。た・楽しむ！し・失敗をたくさんする。た・困っている人がいたらたすける。ち・チームワークを大切に、小さなチャレンジを積み重ねる)》
- ・参加者の緊張を取り除くために、ワークショップの導入で身体を動かすワークやコミュニケーションゲームを行うなど、参加者の心情に寄り添うプログラムで実施した。
- ・参加者の声を活かすためにプログラムも臨機応変に対応しながら行った。
- ・毎回ワークショップの最後には参加者と振り返りを行い、その日の感想や次回やってみみたいことなどのヒアリングを行い、プログラムに反映させた。
- ・毎回様々な劇団員にボランティアスタッフとして参加してもらい、多角的な視点で参加者に関わるよう務めた。
- ・参加者の中に持病を抱える生徒がいたため、プログラムに配慮し、こまめな声掛けを行った。
- ・ワークショップの前後に必ず情報共有を行い、参加者一人一人に対し適切な対応ができるよう務めた。

○運営上の工夫

【準備段階】

- ・活動時間等の在り方等については、新宿子ども劇場からも情報収集を行い、中学生の実態を調査して決定した。
- ・生徒たちの募集については、新宿区と新宿区教育委員会から後援名義を得て、公立中学校全校生徒へのチラシの配布を実施。また教育委員会を通じて校長会やスクールコーディネーターにも連絡を取り、直接生徒にアピールしてもらえるように依頼した。私立中学校へは独自のルートで教師と連絡を取り、理解を得たうえで生徒への周知を依頼。また、新宿区観光文化課に依頼して、新宿区内約100か所にある掲示板にチラシを掲示してもらった。

【実施に当たって】

- ・持病を持っている参加者がいたため、保護者と直接連絡を取り合いその都度ケアを行った。
- ・コロナ対策として定期的なPCR検査の実施。当日もスタジオ内の消毒や、ファシリテーター、参加者の検温、手指の消毒を徹底した。
- ・劇団の稽古場で行うことで、参加者に本格的な設備の中で演劇に触れてもらうことができた。
- ・保護者にも活動を理解してもらうために、成果発表を通して参加者生徒の様子を見てもらう場を設けた。

○継続的な運営に関する課題・展望

- ・新宿区と新宿区教育委員会の後援を得たことで、区内全ての公立中学校に通う生徒への呼び掛けを行うことはできたが、定員人数の応募には至らなかった。
- ・(特定非営利法人)あそびと文化のNPO新宿子ども劇場の副理事長に外部有識者として関わってもらい、実際にワークショップに参加・見学していただいたうえで助言などをいただいた。
- ・幅広く参加者を募るために、参加者から会費の徴収は行わず、無料で実施した。
- ・自治体の補助金制度や民間の基金などは活用できていない。
- ・劇団の稽古場で実施したことで、参加者により本格的な体験を提供することができた。ただ、劇団のスケジュールによっては日程を確保出来ないことも有りうるため、検討が必要。
- ・参加者の在籍する中学校との情報交換を行う事で、教師にとっても生徒たちの別の面を知る機会にもなり、先生方の負担軽減にもつながる。

○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・計画

- ・参加者の募集については、今年度行った活動の様子や成果などを報告書にまとめ、次年度以降の参加者の募集に活用する。
- ・(特定非営利法人)あそびと文化のNPO新宿子ども劇場とは今後も引き続き連携を取りつつ、次年度以降の活動に向けてより発展的な関係を構築していく。
- ・活動場所に関しては、公立の施設など外会場の利用も視野に入れて検討する。
- ・今年度は無料で実施したが、継続的な運営をしていく上で検討が必要か。
- ・自治体の補助金制度や民間の基金などに関しては、本年の活動で得た成果をアピールし、可能性を探る。

※上記4点の記載の中に活動の画像を挿入してもよい。

※『地域移行(展開)を進める際のポイントチェックリスト』を参照すること。

参加者 (予定人数)	対象学年 中学校1年～3年 人数4人 今後の予定人数 12人
募集方法	チラシによる募集。区内中学校に教育委員会を通じてチラシ配布。区内掲示板へのチラシ掲示。
指導者	青年劇場 劇団員より講師2名 他ボランティアスタッフとして青年劇場俳優・舞台スタッフ
移動手段	保護者による送迎
活動費用	講師料 スタジオ結 借用料 その他 チラシ作成など
スケジュール	11月6日から12月19日の2か月で8回 土・日を基本に2時間から3時間(午後) 11月6日・7日・27日・28日・12月11日・12日・18日・19日 最終日 19日には照明・音響を入れての成果発表を行う。
保険加入等	行事参加障害保険

※文化庁ホームページ:地域文化倶楽部(仮称)の創設に向けた検討会議 [事例集](#)を参照

掲載URL

(https://www.bunka.go.jp/shinsei_boshu/kobo/pdf/92801101_09.pdf)

※それぞれの項目に掲載しているのはあくまで例示ですので、掲載しているもの以外の観点等で自由に記載していただいて結構です。ただし、どこかの項目に学校の働き改革(教員の負担軽減)を踏まえた観点の記述を必ず入れていただきますようお願いいたします。(本事業の最大の目的であるため)

【活動の様子 (写真添付)】



彫刻ゲーム



エチュード



エア一大縄跳び



発表に向けて読み合わせ